

# ぼうさい みくまじろ



No.16

H29. 2. 20 発行

みくまの支援学校  
育友会 防災研修部

学校防災プロジェクトチーム

# 避難生活マニュアル



検討中!

学校防災プロジェクトチームでは、夏季休業中に行った教職員によるワークショップでの意見をもとに「避難生活マニュアル」を作成中です。それぞれの項目ごとに担当者（部署）を決め、大地震発生後、体育館へ避難したあと72時間を想定した2次避難における生活がうまくいくように ※



プロジェクトチーム会議の様子

## マニュアルの項目

- A 児童生徒・職員管理
- B 施設管理
- C 情報管理
- D 食糧・食事管理
- E 避難所開設・運営
- E-2 福祉避難所開設・運営
- F 救援体制



※検討しています。それぞれの項目ごとに一つのファイルにまとめ、それを見ればスムーズな運営ができるようにしようと検討中です。例えば、「食糧・食事管理」では、ストックしている食材等で、当面のメニュー等が考案されています。次年度の夏ごろには完成予定です。



## 生徒証明書と一体化 ヘルプカードを考案中

プロジェクトチームでは、子どもたちが、災害時に周りの方々の支援を受け易いように「ヘルプカード」を検討しています。次年度の実用化を目指しています。



2つ折り、名刺サイズ。  
内側に個人情報を記載。

サンプルを手に取り、意見交換をしました。



# 育友会

# 防災講演会

## 参加者アンケート①から



1月19日(木)に開催した防災講演会では、参加者にアンケート調査(①感想 ②参考になったこと ③現在取り組んでいる防災対策 ④防災対策の課題)をおこないました。その中で、今回は、家庭(事業所)等で取り組んでいる防災対策について抜粋して紹介します。参考にしてください。

- 防災バッグ(P T A)
- 避難場所の取り決め(教育関係者)
- 水の確保(教育関係者)
- 避難場所、避難経路は常に確認している(教育関係者)
- 避難訓練、備蓄等、まだ当たり前のことしかできていない状況(教育関係者)
- 寝室に倒れそうな家具は置かない、防災袋の準備(教育関係者)
- 災害時の食糧、薬、ラジオ等(教育関係者)
- 寝ている近くに背の高い家具を置かない、水、食糧を備蓄、外に大きなポリ容器を置き、雨水をためている。(教育関係者)
- 水や食糧の備蓄ぐらいしかしていません(教育関係者)
- 防災バッグ、家具やテレビ等の転倒防止対策(教育関係者)
- 要援護台帳整理、備蓄等(自治体職員)
- 3日分の食糧等の備蓄(自治体職員)
- 棚やタンス等、高いものは置いていません(障害者施設職員)
- 訓練(福祉施設職員)
- マニュアルを作成している(福祉施設職員)



## みくまの方丈記 ⑭

～それぞれの生き様～



榎本校長先生による特別寄稿です。



30年程前、高1で担任した生徒が白血病を患った。病床においても勉強し、願い叶い大学へも進学できた。しかし、二十歳を迎える直前の12月に帰らぬ人となった。新年を迎えた朝、見送ったはずの彼から「元気で頑張っています」と書かれた年賀状が届いていた。病床で綴ったその文字を見たとき、健気に生きようとする姿が目につかび、身につまされた。

骨髓バンクにドナー登録をしたのが37歳だった。当時、和歌山県内にはドナー登録をできるところがなく、大阪の日赤病院まで行った。その日は私を含め男性4人女性5人が来ていた。全員が一室に集められ、説明を受け、ビデオを見た。骨髓採取に伴うリスクの説明であった。担当者から今からでも登録を見送ることができることを説明されたが、誰一人辞退する者はいなかった。皆、それぞれの思いがあってあの場に臨んでいたのだと思う。当時を懐かしく思うと同時に、過ぎ行く一瞬一瞬の積み重ねが人生そのものであることに改めて気づかされた。ふと気付くとチャップリンの映画曲「ライムライト」が流れていた。